

令和5年度
自己評価・学校関係者評価結果報告書

評価対象期間
令和5年4月～令和6年3月

令和6年6月

学校法人博多学園
博多メディカル専門学校
学校関係者評価委員会

1. 目的

学生が質の高い実践的な職業教育を受けられるよう、学校運営の改善と発展を目指すため学校評価（自己評価・学校関係者評価）を実施する。

実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価する。評価結果に基づき、学校として組織的・継続的な改善を図る。

2. 学校関係者評価

卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、令和4年度の学校業務について、学校自ら行った自己評価の結果について評価を行い、改善に向け専門的な助言を行う。

3. 評価項目

- ・自己評価の内容が適切であるか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切であるか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切であるか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切であるか

4. 組織

(1) 学校関係者評価委員会委員（令和6年6月現在）

石松 弘行	(株) アイディック 代表取締役 本校卒業生（歯科技工士科28期）
古賀 直子	一般社団法人 福岡県歯科衛生士会 副会長
篠崎 陽介	しのぎき歯科医院 副院長
下田 英津子	一般社団法人 福岡県臨床工学技士会 副会長 本校卒業生（臨床工学技士科1期）
武部 愛子	福岡こども短期大学 特任教授 福岡市教育委員会 教育委員

(2) 任期

令和5年4月から令和6年3月まで（以後についても継続中）

5. 評価委員会の開催記録

令和6年6月27日（木）開催 委員5名（WEB開催）

なお、本校より以下の教職員が出席している。

大峰 礼子	校 長
村上 美紀	副 校 長
橋口 良太	事 務 長
山田 誠	歯科技工士科 教務主任
植木 美佐	歯科衛生士科 教務主任
池永 栄	臨床工学技士科 教務主任

6. 評価要領

自己評価書を学校関係者評価委員に事前配付。学校関係者評価委員会を開催し、自己評価結果について説明をした上で、学校関係者としての評価を実施した。

なお、会議の進行および事務については学校が行い、自己評価結果に対する公正な評価に努めている。

7. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

No.	評 価 項 目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評 価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
1-2	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人物像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか（コース修了後に、学習者とそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか）	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

○教育課程編成員・学校関係者評価委員の方々からのアドバイスを受け、より特色ある学校づくりができるようになった。また、高等教育の修学支援新制度を受けていることにより、学生の経済的な問題の軽減を図ることができている。

【教育課程編成委員会】 ⇒ 令和6年1月～3月に3科共各2回実施。

【学校関係者評価委員会】 ⇒ 令和5年7月・8月に実施。

○職業実践専門課程認定校としての「企業連携授業」を今年度も実施した（歯科技工士科：4回、歯科衛生士科：10回、臨床工学技士科：8回）。いずれも実践的な最先端の医療技術に触れることで学生の向学意識も高まり、かつ企業側においても学生への企業PRの場となり、今後ますますその相乗効果が期待できる。

○高専連携について、歯科衛生士の業務内容やその魅力を、高等学校、行政、業界団体と連携して広く社会に普及させ、高校性の歯・口の健康づくりとキャリア意識の向上をテーマにプログラムの開発と実証を行い、地域口腔保健の中核を担う人材を育成する。実施委員会には校長が構成員として出席し、事業活の方針を策定し各機関の連携状況の確認専門部会への指示を主な業務として実施。広報部会には副校長が構成員として出席し、ホームページ、広報用ポスター案および配布先の検討、専修学校委託事業成果PR動画の作成を主におこなった。成果PR動画も完成し、令和6年度の広報用ポスター・冊子も校了し配布される予定。（実施委員会会議(Web)2回、広報部会会議4回出席）

<学校関係者評価委員会の評価等>

・適切な自己評価がなされていると認められる。

(2) 学校運営

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
2-4	人事・給与に関する制度は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

○毎月、管理職会議、校務運営会議、8・12・3月以外各科職員会議を実施。また、科別に教務会議も適宜実施し、情報共有を行い教務の円滑化を図っている。

○本校教職員において「委員会組織」を編成し、学校内外の課題解決に向けて学科・事務職員の枠を超えて取り組んでいる。令和5年度は13の委員会によって、よりよい学校づくりに向け取り組んでいる。特に、令和5年度より校長を委員長として、副校長・事務長・各科の教務主任で構成された「リスクマネジメント委員会」委員会を立ち上げ、校内で発生したアクシデントおよびヒヤリハット事象の内容を共有し、再発防止に向けた取り組みを検討している。(実施回数：5回)

なお、リスクマネジメント委員会での展開については、以下を想定している。

- ・「学校における危機管理」およびその取組方法を理解し、校内での周知を図る。
- ・校内の安全・安心に向けて各科・委員会等を通じて実践するように促す。
- ・マニュアルの見直し、運用についての点検を実施する。

○給与・人事や財務等については、学校法人博多学園の方針に基づき円滑に対応できるよう、法人全体としての体制整備がなされている。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(3) 教育活動

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
3-1	教育理念・到達目標に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-3	学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-5	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-6	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
3-7	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4

3-8	人材育成目標に向けて授業が行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-9	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	4
3-10	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

○コロナが 5 類になり、外部研修もコロナ禍前のように多く開催され各教職員においても自己研鑽に努めた。現在でも関係団体や他団体では無料のオンラインやオンデマンドでの研修も多く実施されているため、専門分野だけでなく他興味深い内容の研修も積極的に受講し教職員としての資質の向上に努めるよう促す。教員の資質の向上は教育の質の向上にも繋がることから他校との差別化を図る上で重要である。

○冬期教職員研修では株式会社リクルートより講師を招いて「今後の学生募集について」の演台で講演とグループワークに取り組み学生募集について意識の共有を図った。また、教員や教育の質の向上として毎回「各科の課題検討」など FD/SD の実践に取り組んでいる。次年度も専門学校信頼宣言にあげている「質の高い教育のため、教員は、自己研鑽に努めます」を実行し学生達に反映させていく。

※FD：ファカルティ・ディプロップメント＝教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。

※SD：スタッフ・ディプロップメント＝事務職員含めた教職員全員を対象とした、管理運営から教育支援等までを含めた資質向上のための組織的な取組。

○臨床工学技士科カリキュラムの大幅改定を契機に、大学と差別化されたフレキシブルで実践的な授業・実習を実践する。(2～3 年生には、保護者にも留年できない状況を丁寧に説明する。)

新カリキュラムと旧カリキュラムが混在しており、教員の負担も多い状況である。なかでも旧カリキュラムの 2 年生は留年できないため、学習や実習に対する指導がこれまで以上に重要になっていることから、全教員で対応にあたって全員進級をさせることができたが、翌年度も卒業へと導くよう最善を尽くす。新カリキュラムについても、企業、実習施設と連携し本校ならではの特色を持った教育の構築を目指し、PDCA サイクルを回しながら充実したものを作り上げていく。

<学校関係者評価委員会の評価等>

・病院実習や施設見学などについても、コロナ禍以前の対応に戻ることができているかについて確認した。マスク着用や発熱状況などの諸条件や制限はあるが、おおむね戻っていることを報告した。

- ・病院実習で体温37度以上は実習ができないが、その場合の振り返り対策などについて確認した。可能であれば別日程で病院対応、やむを得ない場合で認められている範囲については学内で代替するなどの対応をしている。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(4) 教育成果

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
4-1	就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 令和5年度の退学者数は8名(2.6%)であり、うち1年生は6名・2年生は2名である。
令和2年度分の「学校関係者評価委員会」会議で確認したとおり、本校は「退学率2.5%以下」を目標指数としていることから、今期は目標に及ぶことができなかった。
- 担任、副担任、教務主任は学生本人との面談や保護者への連絡など、常に「退学者ゼロ」を目指して対策は取っているが、退学者の発生が防げない状況である。学生自身が抱えている問題や学校での友人関係、またアルバイト(未届け)による学業への意識希薄など理由は多岐に渡るが、今の事に精一杯な学生が多くなってきているように感じられる。昨年度の「学校関係者評価委員会」での意見をもとに令和5年9月よりスクールカウンセラーによる相談日を定期的に月1回設けており、スクールカウンセラーの力を借りながら早めに対処することで、博多メディカル SDGs として掲げている4(質の高い教育をみんなに)・5(ジェンダー平等を実現)を実践し、引き続き「退学者・休学者ゼロ」へ向けての対応の強化に取り組む。
- 「フリーライン」(国家試験対策)のシステムの活用や、記憶定着アプリの「モノグサ」を3科共に導入し地道に力を付けさせる働きかけにも取り組んでいる。また、学生の履修状況を踏まえた様々な取組を各科計画・実施し結果に繋げる努力を続けている。「モノグサ」の導入では問題作成等の課題もあったが、今年度は3科ともに導入することができた。活用方法は科によって違いが出ている現状ではあるが、学生負担で導入していることを踏まえ頻度よく効果的に利用して学習支援を継続する。
また、学生の学力や集中力の低下が年々顕著になってきている状況を踏まえ、「モノグサ」

の機能をより効果的に活用するなどして、国家試験合格へと繋げたい。学校信頼宣言の「入学した学生は国家試験に合格させる」を実行し、3科全員国家試験合格を達成する。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・臨床工学技士科において、「学士」「専門士」の違いで就職先に差がでるものであるか否について確認した。
- ・国家試験に不合格となった学生等について、積極的に就職させながら学習させるのか、それとも国家試験再受験に向けて学習に集中させる方針であるのかについて確認した。それぞれの国家資格ごとに就職先での受入実態等も異なり、個々人の状況に応じた指導をしている。
- ・「評価項目4-5」について、どのような施策を講じることで評価を上げることができるかについて確認した。就職先訪問やホームカミングデー・インターンシップ訪問等での追跡調査などを通じて情報を収集し、今後の学内教育やキャリア形成支援に繋げるなどの課題を整理する。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(5) 学生支援

No.	評価項目 適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1	評価
5-1	基本的な生活習慣の確立のために取り組んでいるか	4
5-2	進学・就職活動にかかる支援体制は組まれているか	4
5-3	学生・保護者からの相談体制が組まれているか	4
5-4	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-6	保護者と適切に連携しているか	4
5-7	卒業生への支援体制はあるか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

○令和5年度より就職支援アプリ「スタログ for Recruit」を全学科・全学年に導入し、求人票の閲覧や活動報告書の提出をオンラインで求めており、データの蓄積に取り組んでいる。学生にとっては、臨床実習中など長期間学校に来校することができない期間などでも自分のペースで時間を問わず求人票をチェックすることができ好評である。また、教職員にとっても学生個々人の就職活動状況などが確認できるため、非常に有益である。このシステムは最終学年の学生のみならず、早期に就業へのモチベーションを高めるためにも有用であると考えられるため、1・2年生の活用方法についても学校より適宜インフォメー

ションして、効果的に活用するようにしたい。

- ホームカミングデー（卒業生の集う機会の提供）の開催や、就職先企業への訪問など、卒業後の学生動向の情報把握に努めている。「同窓会50周年」を令和6年度に迎えることもあり、同窓会との連携をより強固なものとし、学校力を高めるための活動を継続させていく。
- オープンキャンパスの内容や対応、学校生活における対応や支援、就職のサポートや卒後の支援等、数ある専門学校の中から本校を選んでもくれた学生に感謝して、サポートを継続したい。
- 在校生や卒業生が後輩に勧めてくれる学校を目指す。そのためにも質の高い教育を実践し、学生満足度を高めることが肝要である。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・さまざまなアプリケーションを利用し学生の行動を前向きに促していることに付随して、（本校では現在取り入れていない）例えばメンタル面でのアプリケーションについては未だ不安定さなども散見されるため、新規システムの導入・推奨については十分な検討が必要であることを確認した。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(6) 教育環境

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-3	防災に対する体制は整備されているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- オンラインでの学習環境についてはコロナ対策だけでなく、豪雨や豪雪などの自然災害時にも対応し学びを止めない工夫も行い、全学年無事単位取得に繋げた。また、資料や伝達事項についても各科の状況に合わせた手法によって不備がないように実施するなど、教員のスキルと対応力の高さは年々向上している。
今後もオンラインを併用した学びを視野に入れ、更なる工夫で取り組みたい。
- 授業の効率化を図るため、歯科技工士の2教室を1教室に改修する工事を令和5年3月末に完了させており、改善が進んでいる。

- iPad 導入については、各科の状況により使用頻度に差があるため一斉にとは難しいのが現状である。今年度から学生への Wi-Fi 環境提供を届出制により開始したが、ルールを決めて運用できており問題はない。Z 世代学生の状況を加味しながら ICT を活用した教育の研究を進める。
- 感染予防対策等の補助金を利用して、サーキュレーターやエアドッグ（高性能空気清浄機）を購入した。これにより教室・実習室・休憩スペース等の感染予防対策の充実を図ることができた。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・「評価項目 6-3」について、学生が気候変動などで登校できない場合等の対策について確認した。本校では、「リモート授業」や「リモート・対面を組み合わせたハイブリッド授業」に取り組む環境は整えられており、歯科技工士科では一部の実技課題も自宅で実施できるようにしている。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(7) 学生の受入募集

No.	評価項目 適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1	評価
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7-3	学納金は妥当なものとなっているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 令和 6 年度の入学生数は、DT 40 名（定員対比 125.0%）、DH 54 名（同 108.0%）、CE 23 名（同 57.5%）、合計 117 名（同 95.9%）である。新入生全体でみると、昨年度に引き続き定員を確保できなかった。この結果を的確に受け止め原因を分析し対応策を練り、次年度は全員で危機意識を共有し募集活動・学生指導に取り組む。
- 文科省補助対象事業・高専一貫教育プログラムとして、本校の同法人系列校である博多高等学校対象の 1 年生を対象に 12 月と 1 月に実施。高校生の歯・口の健康づくりとそれを担う歯科衛生士、歯科技工士についての関心を深めるために 4 つの動画を用い説明した。また、6 月には「博多高等学校生徒・教員見学会」を実施し、本校を志願している生徒 10 名と引率教員が来校、各科教務主任より説明を行った。結果として、全員出願し入学が決定した。令和 6 年度の博多高等学校からの入学生は DT 科 8 名（うち 1 名は既卒）、DH 科 4 名、CE 科 4 名計 16 名で過去最高数である。この状況が持続できるような取組を、今後も実施していく。

- 刷新した「歯科技工士科の特化リーフレット」は、デジタル歯科技工や先端の職場環境の理解を促す内容になっており、これまでの歯科技工士のイメージを払拭させることができるため、ガイダンスや高校訪問での生徒や教員への説明時に有用性が高いといえる。
「臨床工学技士科の特化リーフレット」についても、高校教員等からの意見を反映させながら今年度末に完成させており、訴求効果を高めるツールとして活用していく。
- オープンキャンパスの取り組みとしては、リクルートによるSA（スチューデントアシスタント）研修は5月、3月に実施し、5月はSAとしての役割の意識付けを図り、3月では1年間のリフレクションとそれを踏まえた次年度の具体的な取組について、それぞれ考え宣言シートに記入した。このSA研修を恒例研修とし、年2回実施する旨をSAに伝え全員参加を必須として取り組み、SAの質の向上を図りたい。
- オンラインオープンキャンパスは6回（うち3回は参加者なし）・高校ガイダンス31回実施。中でも、オンラインオープンキャンパスは3名の参加者中3名が出願に繋がった（出願率 100%）。
- SNSでの広報活動ではInstagramや教員ブログを行っている。特に教員ブログは各科担当を決め2週間に一度の更新を基準としているが、科によってバラつきがあるので、教員目線の学生の様子や学科の取組を積極的な外部へのアピールを継続する。DT科はスタディサブリのOCストーリーに頻繁にアップしていることで、DT科の学校を検索したとき本校が上位に出てくるようになっている。今後はDH科/CE科も取り組むようにする。
- 本校ホームページを刷新し、博多メディカル専門学校の価値を正しく伝え、最新の情報を即時に発信できる環境を構築した。これまでのホームページでは、掲載したい情報を更新する場合には、都度業者へ依頼しかつ費用が発生する仕組みとなっていたが、新しいホームページではその問題を解決し、学校で都度情報更新できるようになった。
これまで自然災害等による急なお知らせや入試情報・オープンキャンパス情報などをどのように本校志望者や受験者、また学生や保護者に伝えるか苦心していたことが、最新の情報を即時に発信できるようになった。また、スマートフォンで情報を得ることの多い高校生を意識し、画像を多く取り入れ動きのある見やすい内容に仕上げた。さらに、掲載している写真も適宜変更できるため、学校生活の様子や行事なども発信しやすくなっている。
- 学びの多様化が進む中、「通信制の高校」とパイプを作り、早い段階からの訪問・ガイダンスを実践することを意識して広報活動に取り組んだ。教務主任の一部を広報委員に迎え、ガイダンスや高校訪問の強化を図っている。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・臨床工学技士への希望者は（本校だけではなく）全体的に減少しているとの説明であるが、今年だけでなくこれまでも受験者数が減っているということであるか確認した。以前は養成校が専門学校・大学と半数程度であったものが現在はほとんど大学へシフトしてお

- り、かつ大学進学志向の希望者が増加しており、専門学校は苦戦している状況である。
- ・一方で歯科技工士科・歯科衛生士科は昨年度に比べて大幅に入学者が増加しているため、その理由を確認した。長年にわたり就職活動に注力してきたこと・博多学園系列の博多高等学校より多くの入学者を受け入れることができたこと・他の競合校の受け入れ状況より結果として入学増となったことなどが理由として考えられるが、これまでの受験者の出身地域も一部傾向が異なっていることもあり、予断を許さない状況である。
- ・募集活動における高校訪問数について確認した。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(8) 財務

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
8-1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 学校法人博多学園の運営において、適正な対応がなされているといえる。健全な学校運営のためには学生の確保が喫緊の課題であるため、引き続き募集活動および退学者低減のために取り組んでいく。
- 定員を確保しなければ、財務は安定しないことを肝に銘じ、経費の削減と節約を図りながら、人材育成の為の研修や教育の質向上の為の学習環境整備を計画的に実施する。
この定員不足が、数年にわたって財務状態を厳しくさせることとなるが、「全ては学生の最善の利益のために」を常に念頭におき、できうる限りの取組を実施していく。教職員全員が「定員の確保」を意識し、募集活動や学生指導に取り組み、安定した財務状態を確保できるようにする。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(9) 法令等の遵守

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
9-3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
9-4	自己評価結果を公表しているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 学校法人博多学園の方針に基づき法令遵守については自己点検を適宜進めており、改正個人情報保護法への対応など、着実に取り組んでいる。
- 自己評価を実施し、個別の課題点をクリアできるように評価の方法を昨年度から見直している。課題点に対する解決方法を明確にし、より具体的・実践的に取り組めるように「自己評価」の制度を活用していく。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(10) 社会貢献・地域貢献

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
10-1	学校に教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- コロナ禍を経て、次年度以降は積極的に取り組めるように、関係者・関係団体等と適宜協議を進めたい。
- 「50周年 Vision:Mission」を達成するための中長期的な目標として「博多メディカル専門学校 SDGs(3・4・5・17)」を掲げ取り組んでいる。今年度も引き続き学生によるペットボトル分別啓発活動や、古着でワクチンの取り組み、また新たに使用済み切手・書き損じハガキの寄付を実施した。

[3. 全ての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現

17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化
する]

<学校関係者評価委員会の評価等>

・適切な自己評価がなされていると認められる。

(11) 国際交流

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
11-1	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
11-2	国際交流に取り組んでいるか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 7月11～13日の3日間、姉妹校である釜山カトリック大学との姉妹校交流を4年ぶりに再開した。釜山カトリック大学からは教員5名通訳1名学生20名が来校し、本校学生も2年生9名が参加した。台風の影響で1日縮小となったが、デッサンと彫刻を中心とした学習内容に両校の学生達は翻訳アプリ等を駆使しながら交流と技術の習得に励み、双方に刺激のある良い交流であった。今後も双方にとって有益なものとなるよう取り組む。
- 昨年より取り組んでいるインドネシア国立アイルランガ大学の歯学部学生への授業を引き続き今年度も実施（R6.3月28日、R6.4月18日：歯科技工士科教員）。今年度は「義歯」の内容であるため河原英雄先生の「前歯でも噛める入れ歯研究会」の先生方にも3月14日に担当して頂くなど充実した内容に発展した。
- 台湾より敏恵医療管理専門学校の教授1名・学生2名が8月21日～9月3日の13日間にわたり本校・歯科技工士科へ来校し、授業見学・模型製作・歯型彫刻・ラボ見学および交流を実施した。
- これらの取組を、今後どのように発展させ国際交流の活性化に繋げるかが課題である。

<学校関係者評価委員会の評価等>

・適切な自己評価がなされていると認められる。